

【ご参考資料】

2015年1月27日

格付会社S&Pによるロシアの格下げについて

外貨建て格付をBBB-からBB+に引き下げ

2015年1月26日、格付会社S&P(スタンダード・アンド・プアーズ)は、ロシアの外貨建て長期債務格付を「BBB-」から投機的格付の「BB+」へ、自国通貨建て長期債務格付を「BBB」から「BBB-」へ、それぞれ1段階引き下げました。見通しは「ネガティブ」としました。

今回の格下げの背景としてS&Pは、ルーブル安によるインフレ率の高止まりや、欧米による対ロ制裁の影響などにより、同国の金融政策の柔軟性が低下し、経済成長見通しが悪化したことなどを指摘しています。

見通しについては、「国外からの圧力が増大し、同国政府が景気支援策を増強させるなか、今後1年間で想定よりも早く対外・財政バッファが小さくなった場合、さらなる格下げを検討する」としています。

格下げと欧米による対ロ制裁強化懸念を受け、ルーブルは大きく下落

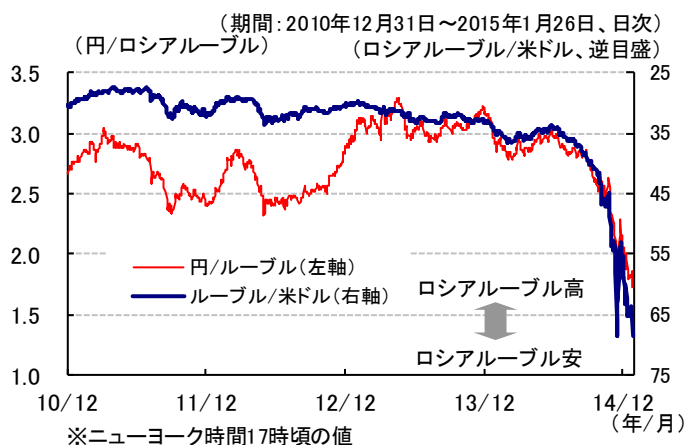
1月26日のニューヨーク外国為替市場では、対米ドルで前日比6.9%程度、対円で同6.6%程度のルーブル安となりました。S&Pは昨年12月、今年1月半ばにもロシアを投資適格級から外す可能性を示していたことなどから、今回の格下げ自体は予想されていましたが、ウクライナ東部で戦闘が再度激化し、欧米が対ロ制裁強化を示唆するなど、他の悪材料が重なったことなどから、ロシアルーブルは大きく下落しました。

以上

【図1】ロシアの外貨建て長期債務格付(2015年1月26日現在)

格付会社	1月26日発表	1月26日発表以前
S&P	BB+ (見通しは「ネガティブ」)	BBB-
(参考) ムーディーズ	(参考) フィッチ	
Baa3	BBB-	

【図2】ロシアルーブルの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成